

ピックアップテーマ

レガシーからの脱却と競争力強化
調達DX戦略 ——
現場の知恵とデジタルが拓く次世代の購買

■特集期間

2026年10月26日（月）～ 12月25日（金） 予定

■お申込み締切

コンテンツ制作あり：2026年9月9日（水）

コンテンツ制作なし：2026年10月2日（金）



ピックアップテーマとは

専門メディア編集部が注目するテーマについて、編集記事を集約した特集ページを開設
メディアと連携した企画展開で、貴社コンテンツをターゲット読者・会員に訴求します



特集ページを開設

編集部が注目するテーマについて特集ページを開設します。貴社コンテンツに加えて編集部による解説や関連する編集記事を掲載して、専門性が高く情報収集に熱心な読者に情報発信をします。



認知向上も実現

専門メディアバナー広告枠を利用し、本特集ページへメディア上から誘導をかけます。通常のリード獲得案件に比べてターゲット読者・会員の認知向上も実現できます。



コンテンツ制作付き お得なプラン

本特集ならではの費用対効果を見込めるお得なプランを用意しております。PRする絶好の場として、本特集をご活用いただけますと幸いです。

レガシーからの脱却と競争力強化 調達DX戦略——現場の知恵とデジタルが拓く次世代の購買

不安定な国際情勢や急激な市場変動により、調達部門が担う役割は「単なるコスト削減」から「事業継続の要」へと変貌している。しかし、多くの現場では依然として紙やExcel、熟練者の経験に頼るアナログな手法が残り、購買データのブラックボックス化やノウハウの散逸が深刻なリスクとなっている。もはや属人的な対応で変化に食らいつくのは限界であり、現場の目利きを組織の資産としてデジタル化できる「高度な基盤」を構築すべき段階にあるといえる。本特集では、不透明な時代を勝ち抜くための「攻めの調達」へとシフトする具体的な道筋を導き出す。

キーワード	調達DX、購買プロセス、サプライチェーンマネジメント（SCM）、購買データ分析、AI活用、電子契約、ペーパーレス、サプライヤーリスク管理、コスト削減、e-Procurement
読者の課題	- アナログな事務作業を徹底して効率化し、バイヤーが戦略的なソーシング業務に注力できる環境を整えたい - 災害や地政学リスクに備え、サプライヤーとの連携をデジタルで強化し供給網の断絶を防ぎたい - 属人化した見積もりや価格交渉のプロセスを透明化したい
想定リード属性	調達・購買部門、情報システム部門、経営企画職、サプライチェーン部門、経理部門など
実施メディア	TechTargetジャパン
実施期間	2026年10月26日（月）～12月25日（金）予定
申込締切	コンテンツ制作あり：2026年9月9日（水） コンテンツ制作なし：2026年10月2日（金）
提供リード数例	130件保証～（プラン毎に異なります）
料金例	100万円～（プラン毎に異なります）



※上記日程以降にコンテンツ制作がスタートする場合、ページオープン時に間に合わない場合がございます
※締切日以降の後乗りも可能ですが、掲載開始時期によっては特典の一部をご提供できかねる場合があります

スポンサープラン

ご提供内容	記事制作 + サーベイプラン	記事制作プラン	リード増量プラン
オンラインリード獲得 - 件数保証でご提供いたします - 属性はユーザー企業となります ※獲得条件の変更は、担当営業までお問い合わせください	250件保証	150件保証	130件保証
コンテンツ制作オプション - リード獲得用のコンテンツを制作します - アンケートの設問内容は貴社にてご用意ください	- 編集タイアップ × 1 - サーベイフォーム × 1	編集タイアップ × 1	—
必要となる新規コンテンツ数 - お手持ちのコンテンツをご用意ください - 記事制作を含むプランでは、新規制作するコンテンツに加えて、右記の本数をご用意ください	貴社コンテンツ × 3	貴社コンテンツ × 3	貴社コンテンツ × 3
企画特典 本企画の協賛で、右記の特典をご提供いたします	- ピックアップテーマのミドルページに掲載 - 特集限定のお得なディスカウント価格		
ご協賛料金	¥2,300,000 (定価から40万円OFF) <u>50件分のリードを実質無料でご提供</u>	¥1,550,000 (定価から25万円OFF) <u>タイアップ記事制作が実質半額</u>	¥1,000,000 (定価から14万円OFF)

※ 値引き額はカテゴリBのリード単価で算出しています。カテゴリA、Cの商材でご出稿の場合 値引き額は異なります。

※ 必要コンテンツ数のご準備が難しい場合は、**新規コンテンツ制作（有償オプション）**や**ITmediaコンテンツの利用（無償利用可）**をご提案可能です

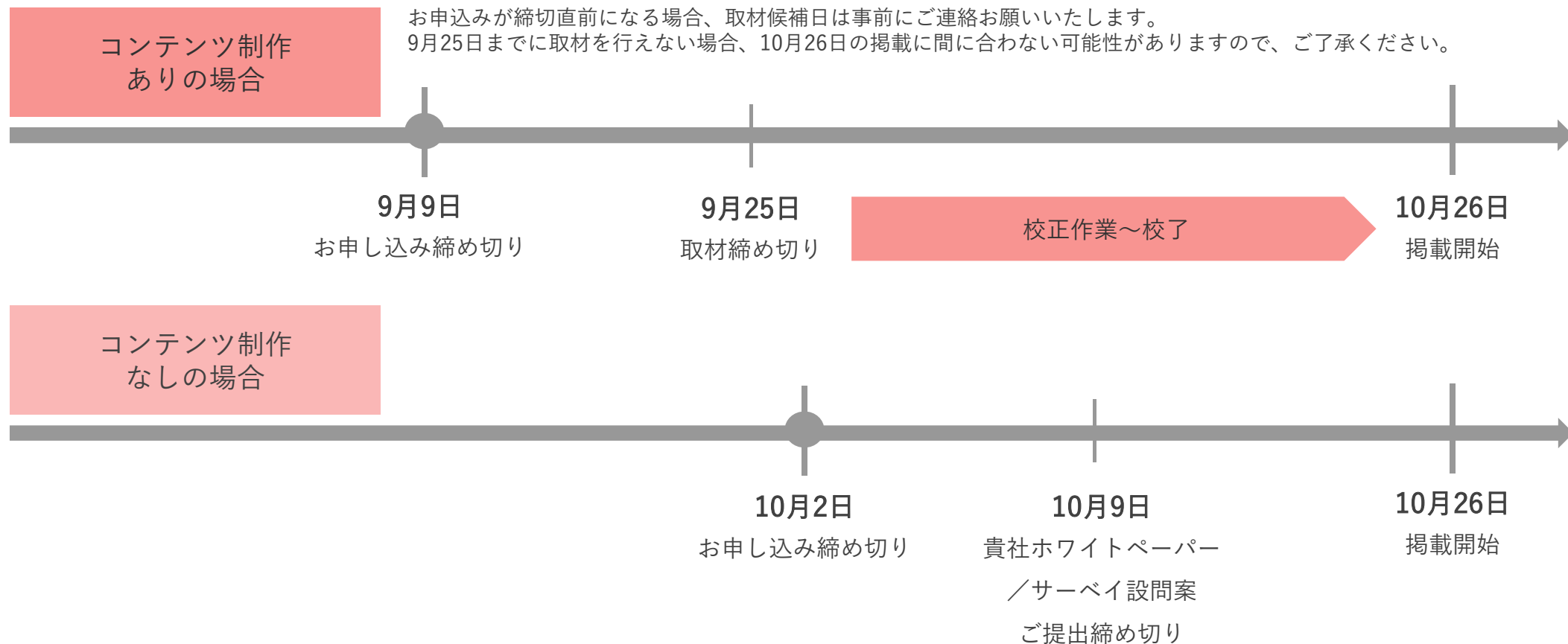
※ 本企画では獲得ペースに応じて**【電話によるコンテンツへの誘導】****【コンテンツ追加依頼】**などの獲得進捗向上施策を行う場合がございます

※ 「ユーザー企業」プランは、会員登録時に下記の業種を選択している会員を納品いたします。

製造業（IT関連以外）／ 通信サービス業／流通・小売・サービス業／建設・建築業／金融業・保険業／教育・学習支援業／医療・福祉／政府・官公庁・団体／その他の業種

スケジュール_ピックアップテーマ

コンテンツ制作の有無によって、お申し込み締め切り日をはじめとした各種スケジュールが異なります。ご注意ください。



※上記は標準時のスケジュールとなり、校正の回数が増える場合や特別対応の場合、上記と異なる場合もございます

※取材日、貴社コンテンツの支給が締め切りより大幅に遅れた場合、特集ページに掲載されない場合がありますので、ご了承ください

制作物仕様・オプション



編集部が企画、取材、編集を担当するタイアップ記事を制作（二次利用も可能）

- 編集タイアップについて
 - 編集部が企画、取材、編集を担当するタイアップ記事広告です
 - 冒頭部分はだれでも閲覧でき、「続きを読む」でリードを獲得します
- コンテンツ仕様
 - ページ数：1html
 - 文字数：4,000文字程度（うち、500文字程度が公開ページ掲載分）
 - 図版点数：3点まで（写真／イメージ図版主体）
 - 企画協力：あり
 - 取材有無：あり
- 備考
 - 取材から掲載までの期間は約17営業日となります
 - 原稿の校正はテキスト原稿、HTMLの各1回ずつを想定しており、校正の回数に応じて、公開までの日数は適宜変動いたします
 - 記事広告内に掲載するイメージ図版は貴社にてご用意ください
 - 終了後も一部を除きコンテンツは掲載され続けます
 - タイアップ記事のPV、UBのレポートはございません
 - 遠方での取材や有識者のアサイン、特別な制作費（イラストなど）が発生する場合は、別途追加費用を申し受けます
 - 広告主様の都合で合意いただいた内容から大きく変更を行う場合、以下費用が発生します
 - 初校の出し直し：¥300,000、念校以降の修正：¥100,000
- 二次利用について
 - 制作した記事広告の著作権は、当社および制作スタッフ（ライター、カメラマンなど）に帰属します
 - 本企画にて制作した記事広告は、改変がなければ無償で二次利用していただくことが可能です（ウェブ上での利用に限定、要出典表記）
 - 印刷物でのご利用は二次利用費が発生いたしますので、利用をご希望される場合は、担当営業までお問い合わせください
- オプション：カスタム記事パンフレット制作
 - 制作した編集タイアップ記事をPDFや印刷物でご利用いただける有料オプションもございます。詳細は担当営業までお問い合わせください

※二次利用には一部条件がございます

ITmedia

© 2020年08月20日 10時00分 公開

ニューノーマル時代のVPN課題を解決

堅牢性と利便性を両立する VPN強制と“インターネットブレイクアウト”とは？

コロナ禍のテレワークで利用者やクラウドサービスが増え、VPNの逼迫（ひっばく）やVPN接続を徹底できないなど、VPN運用の課題が浮き彫りとなった。セキュリティと利便性の両立を実現する解決策を紹介する。

[PR/キーマンズネット]

端末のVPN接続をソフトウェアで「強制」する

「社内に端末があるとき『業務に必要なWebサイトにはアクセスできない』といったグレートウェイ対策を実施していれば、データの流出や不正なマルウェアのダウンロードといったリスクを抑えることができます。ですが、社内に端末を持ち出して、直接インターネットにアクセスしてしまうと、社内ネットワークで実施しているグレートウェイ対策が一切効かない状態となり、統制もできません。これは企業にとって大きな問題です」。こう指摘するのは、アシストの技術者、富士本 博紀氏（アクセスインフラ技術統括部）だ。

こうした問題を解決するのが、日立ソリューションズが開発した情報漏えい対策ソフトウェア「機文シリーズ」の一つ、「機文 Device Control」だ。端末のインターネット接続時に起きると想定される漏えいリスクを最小化できる。各端末にインストールしておけば、社内の業務サーバを利用する際の通信をVPNに接続させるよう「強制」可能で、VPN経由のインターネットアクセスを促進するソフトウェアだ。

富士本氏は次のように力を込める。「機文 Device Controlの大きなメリットは、利用者が全く意識しなくても使えるところ。直接インターネットに接続する画面を裏で禁止しているだけなので、利用者は意識通りVPNに接続して業務を遂行すればよいということです。セキュリティ製品にもかわからず利便性を損なわないのは、とても素晴らしい点です」。

VPN経由の接続を強制（社外利用）

接続先チェック機能の確認の結果から、社内ネットワークを通常接続、社外ならVPN接続の通信のみ許可するようにします。

図1 VPN接続強制機能とは（出典：アシスト）

どのように端末の社外利用を判定するのか

社外には、自宅Wi-Fiだけでなく喫茶店や駅の公衆無線LANなどさまざまなアクセスポイントがある。機文 Device Controlは端末が社外からの利用であると判定しVPN接続を強制するというが、どのように社内/社外のネットワークを判定するのだろうか。

その方法は二重の仕組みとなっている。機文 Device Controlは、接続したアクセスポイントのSSID名が、あらかじめ指定した社内のSSID名と異なる場合に社外と判定し、VPN接続を強制する。しかしこの方法だけでは、悪意を持った従業員が、社内アクセスポイントと同一SSID名を偽装できてしまう恐れがある。このため社内にあるサーバに対してping通信（応答の確認）を実行し、応答が正常に返ってくることで初めて社内ネットワークと判定する。

「社内ネットワークの判定にIPアドレスを使っている同様のソフトは多いが、『SSID名+ping』でより厳密に確認できることが機文 Device Controlの特長です」と富士本氏は強調する。

サーベイフォーム 仕様詳細

サーベイフォームで製品の導入状況や今後の予定、課題などを聞き取りしつつ、リードを獲得

- サーベイフォームについて
 - アンケートの設問内容は貴社にてご用意ください
 - 準備期間は、設問内容確定・ご共有後、約6営業日となります
- サーベイフォーム仕様
 - 設問タイプ：シングルアンサー、マルチアンサー、テキストボックス
 - 必須回答／任意回答：設定可能
 - 設問数：10問以内（「その他」の具体的な内容を記載する枠を設ける場合も1問としてカウントします）
 - 各問の選択肢：10個以内
 - 設問数・選択肢数が10問を超える場合は、原則対応できかねます。必要な場合、対応可否と追加料金のお見積もりを別途協議させていただきます。
- 設問の制作代行
 - 当社による設問設計は有償にて承ります（20万円／アンケート1点）
 - ヒアリングシートをご共有いただいてから約16営業日で公開可能です（複数本同時に制作する場合は要調整）
 - 設問制作にあたってご希望をインプットいただく場として、お打ち合わせのご実施が可能です（任意／30分程度）
- インセンティブ
 - 回答促進のためのインセンティブとして、3万円分のAmazonギフトカードが料金に含まれています
 - 貴社にてご手配いただく景品をインセンティブにすることも可能です
- 備考
 - サーベイフォームのみでは製品・サービスに対する認知獲得が難しいため、コンテンツを用いてのリードジェンとの併用をお勧めします

設問項目	2023年10月1日(日)まで
対象	AI/ITエンジニア等
賞品	3000円分 Amazonギフトカード
お問い合わせ先	メンバーシップ事務局 jp_member@ai-intel.jp

アンケート

1 現在、働き方の多様化などに対応するため、オフィスの形態・レイアウト変更を検討していますか？ (必須)

2 オフィス環境に、社内のメンバーと一緒に参加するWeb会議の導入を検討していますか？ (必須)

3 エキスパートの経験として読んでいただくのを願っています (任意)

ホワイトペーパー 仕様詳細

- ホワイトペーパーについて
 - 当社パートナーの編集プロダクションが取材・制作するPDFコンテンツです
 - ホワイトペーパーダウンロードセンターに掲載してリードを獲得します
 - コンテンツ内容は「製品／サービス紹介」「導入事例」「セミナーレポート」からいずれかお選びください

- コンテンツ仕様
 - ページ数：2ページ／4ページ
 - 文字数：約2,000文字／約4,000文字
 - 図版点数：2点まで／4点まで
 - 企画協力：なし（貴社ご記入のヒアリングシートをもとに取材）
 - 取材有無：あり
 - デザイン／ファイル形式：指定フォーマット（右図）、PDF（Web解像度）

- コンテンツ内容
 - セミナーレポートの取材は2セッションまでとなります
 - 製品／サービス解説、導入事例は、それぞれ下記の4章構成となります

製品／サービス解説

1. 市場背景の解説
2. 課題の提示
3. 解決策の提示
4. 製品情報の紹介

導入事例

1. 導入企業紹介
2. 導入企業が抱えていた課題
3. 選定理由、具体的な課題解決方法
4. 導入によって得られた成果

- 備考
 - ホワイトペーパーの取材、制作進行は編集プロダクションに委託しています
 - 取材から掲載までの期間は約23～25営業日となります
 - ホワイトペーパーに掲載するイメージ図版、写真は貴社にてご用意ください
 - リード収集終了後もコンテンツは掲載され続けます
 - 遠方取材となる場合は、交通費ならびに遠方取材費を申し受けます（Web会議は追加費用なし）
 - 製品／サービス解説、導入事例、セミナーレポート以外の企画をご希望の際はご相談ください
 - 広告主様の都合で合意いただいた内容から大きく変更を行う場合、以下費用が発生します
 - 初校の出し直し：¥100,000、念校以降の修正：¥50,000

- 二次利用について
 - 制作したホワイトペーパーは、ウェブ、印刷物問わず無償で二次利用していただけます（当社以外のメディアへの掲載も可能です）

制作料金

2ページ：¥200,000～

リードを含めた最低実施料金：¥600,000～

4ページ：¥400,000～

リードを含めた最低実施料金：¥800,000～

アイティメディア株式会社

IT管理者目線で比べる DaaS vs. VDI、選択の基準とは？ 管理者を悩ませる2つの仮想デスクトップ、選択の基準とは

DaaSとVDIは共通点も相違点も多く、どちらを優先するかを決めるのは難しい。管理性、カスタマイズ性、価格、稼働性など、IT管理者が実際に当たって確認すべきポイントを解説する。

DaaS vs. VDI

「DaaS」(Desktops as a Service)と「VDI」(Virtual Desktop Infrastructure)は、大きく異なると思っている人ももちろんいるが、両者には共通部分が多い。すなわち、デスクトップ管理が簡素化されること、ハードウェアの数を減らせること、柔軟性とモバイル性が向上することなどである。しかし、セキュリティやライセンス、データのコントロールなど、DaaSにも克服すべき課題が残されている。「DaaS」(Desktops as a Service)と「VDI」(Virtual Desktop Infrastructure)は、大きく異なると思われている人ももちろんいるが、両者には共通部分が多い。すなわち、デスクトップ管理が簡素化されること、ハードウェアの数を減らせること、柔軟性とモバイル性が向上することなどである。しかし、セキュリティやライセンス、データのコントロールなど、DaaSにも克服すべき課題が残されている。

「DaaS」(Desktops as a Service)と「VDI」(Virtual Desktop Infrastructure)は、大きく異なると思っている人ももちろんいるが、両者には共通部分が多い。すなわち、デスクトップ管理が簡素化されること、ハードウェアの数を減らせること、柔軟性とモバイル性が向上することなどである。しかし、セキュリティやライセンス、データのコントロールなど、DaaSにも克服すべき課題が残されている。「DaaS」(Desktops as a Service)と「VDI」(Virtual Desktop Infrastructure)は、大きく異なると思われている人ももちろんいるが、両者には共通部分が多い。すなわち、デスクトップ管理が簡素化されること、ハードウェアの数を減らせること、柔軟性とモバイル性が向上することなどである。しかし、セキュリティやライセンス、データのコントロールなど、DaaSにも克服すべき課題が残されている。

向上することなどである。しかし、セキュリティやライセンス、データのコントロールなど、DaaSにも克服すべき課題が残されている。

「DaaS」(Desktops as a Service)と「VDI」(Virtual Desktop Infrastructure)は、大きく異なると思っている人ももちろんいるが、両者には共通部分が多い。すなわち、デスクトップ管理が簡素化されること、ハードウェアの数を減らせること、柔軟性とモバイル性が向上することなどである。しかし、セキュリティやライセンス、データのコントロールなど、DaaSにも克服すべき課題が残されている。「DaaS」(Desktops as a Service)と「VDI」(Virtual Desktop Infrastructure)は、大きく異なると思われている人ももちろんいるが、両者には共通部分が多い。すなわち、デスクトップ管理が簡素化されること、ハードウェアの数を減らせること、柔軟性とモバイル性が向上することなどである。しかし、セキュリティやライセンス、データのコントロールなど、DaaSにも克服すべき課題が残されている。

「DaaS」(Desktops as a Service)と「VDI」(Virtual Desktop Infrastructure)は、大きく異なると思っている人ももちろんいるが、両者には共通部分が多い。すなわち、デスクトップ管理が簡素化されること、ハードウェアの数を減らせること、柔軟性とモバイル性が向上することなどである。しかし、セキュリティやライセンス、データのコントロールなど、DaaSにも克服すべき課題が残されている。「DaaS」(Desktops as a Service)と「VDI」(Virtual Desktop Infrastructure)は、大きく異なると思われている人ももちろんいるが、両者には共通部分が多い。すなわち、デスクトップ管理が簡素化されること、ハードウェアの数を減らせること、柔軟性とモバイル性が向上することなどである。しかし、セキュリティやライセンス、データのコントロールなど、DaaSにも克服すべき課題が残されている。

1 IT 業界調査会社「IDC」DaaS vs. VDI、選択の基準とは？



■お問い合わせ

アイティメディア株式会社 営業本部
〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町3-12
紀尾井町ビル 13階

<https://promotion.itmedia.co.jp/contact>